

目次

頁

1	支部長ご挨拶	白木博明（昭和23年卒）	1
2	大学の近況について		2
	名古屋大学工学研究科電子機械工学専攻教授		
		早川義一（昭和49年卒）	
3	会員特別寄稿 新ミレニアムを迎えて		3
	東レエンジニアリング（株）	兼松 昭（昭和39年卒）	
4	第5回 会員訪問		5
	東陶機器（株）会長		
	江副 茂氏（昭和30年卒）		
	訪問者 支部長	白木博明（昭和23年卒）	
5	我が生涯学習（ホビー） 俳句への道		8
		松性情文（昭和23年卒）	
6	会員寄稿		
- 1	元副支部長 永田直明氏を偲ぶ	雨宮陽三（昭和18年卒）	9
- 2	光絵雅夫君を偲んで	小澤喬二（昭和28年卒）	10
- 3	第3回「東山へ帰る日」に参加して	山本順一（昭和23年卒）	11
- 4	胃の手術を体験して	鷲田俊司（昭和32年卒）	12
- 5	激動の時代の中国体験記	川本利治（昭和33年卒）	14
- 6	デジタルビデオディスク（DVD）開発について		15
		後藤芳和（昭和48年卒）	
- 7	母校を訪ねて	白髪昇三（昭和52年卒）	16
7	インフォメーション		17
	高翔（航空学科）		
	健友会（分子化学工学科）		
8	会員消息		18
9	平成12年度支部総会報告 庶務幹事	荻原稔蔵（昭和43年卒）	19
10	平成12年度支部会計報告 会計幹事	山田晃（昭和33年卒）	21
11	平成13年度支部役員会報告		21
12	編集後記		22
13	平成13年度支部役員名簿		23

1 ご挨拶 - - 21世紀を迎えて - -

支部長 白木博明(昭和23年卒)



東山会関西支部も21世紀に入り、ほぼ創立50年。名古屋大学創立が1940年ですからほぼ10年をへ東山会の支部ができました。諸先輩の努力、東山会本部のご支援、支部会員の継続的なご協力の賜物と厚く感謝申し上げます。今世紀初の関西支部便りとなりましたが、世界同時不況、業種の好不況を問わず、各位も大変なご苦労の事と存じます。

本年になって特に特徴的なのは、わが日本を支えている日本人わけでも若人の資質に関する問題であります。最新の平均寿命のデータこそ男性77.6歳、女性84.6歳で2位のアイスランド、スイスを引き離し世界一です。また平均余命は70歳の男性は83.8歳、女性は88.2歳まで長生きが可能と、今まで考えられない世界一の長寿国となりました。

この点は喜ぶべきかも知れませんが、将来の日本の予測で、文部科学省所管の^{調査}日本青少年研究所が行った調査で、東京・ソウル・ニューヨーク・パリの中学2年、高校2年の各国約1000人の満足度調査では、「学校生活」が米国74%、日本は32%で、「社会生活」が米国72%、日本はわずか9%、「21世紀への期待度」は米国86%にたいし日本は34%でいずれも最低であります。同じ世代が国によりなぜこうも違うのか誠に不思議であります。意識調査のデータでは「結婚は必ずすべきか」が米国8割、韓国5割、フランス3割、日本2割で、「婚前の純潔」は守るべきかは韓国、米国7~8割、日本4割、フランス2割です。日本の生徒は男子はほぼ半数、女子生徒は6割がそう思わないそうです。

一方大学生の学力問題や高中学生の勉強時間は先進諸国に比べ、問題なく日本は少ないのです。予備校の先生が普通校の先生に勉強法を教えるなど何だか変なことです。

21世紀は誠に問題山積の幕開けとなりましたが、暗い面にのみ注視してもなんら解決の兆しは見えません。スポーツ界では野球、サッカー、ゴルフ、水泳などなど世界に通用するプロ、アマの活躍がめざましく、東洋人が体力に劣るとの意識は今やなく、男女差もありません。その活躍は我々の心をいやしてくれます。これらはコマーシャルリズムに乗っての活躍といってしまうまでもありますが、戦後敗戦の荒廃から立ち上がった日本人は経済の復興のみでなく、勤勉、刻苦精励の伝統的資質にあった見ていいのではないかと思います。経済の復興は単なるマネーゲインではありません。その間に培った科学技術、生産技術の成果で、本来地味なもの。同窓諸氏が頑張ってきた結果であります。

IT、ロケット、宇宙探索、遺伝子解明、環境破壊に対する基幹技術と何でも有りだが、このなんでも有ることが大変重要で、相乗効果は勿論、人文科学面も含めて未到の着想を必ず展開し、大きな期待ができると思っています。今後大きな起爆剤となって世界の発展に寄与し、またそうであらねば日本の将来はありません。

日本の地球上の位置、そこに発生、移住したかは別として、地形的にも気候、住環境、社会資本は、活動条件として決して悪くありません。世界最初の新幹線、超大橋、はそれで生まれたと思います。母校の更なる発展を期待しています。

(平成13年2000年度支部便り 平成13年8月記)

名古屋大学工学研究科
電子機械工学専攻 教授 早川義一
(昭和49年卒)



日本中に「改革」という言葉が満ち溢れておりますが、ご存知のように、大学も例外ではありません。大学の最近の状況を、「東山キャンパスの概観」、「教育・研究」、「独立行政法人化・大学評価と組織改革」を題材に、紙面の関係もありますので、ごく簡潔にご紹介します。

東山キャンパスの最も大きな概観の変化は、工学部1・2・3号館と文系建物の中に位置する、学生時代よくソフトボールを楽しんだグリーンベルトでしょうか。現在では、グリーンベルトという呼称に相応しいほどの緑化が進み、その一角には中央図書館や野外ステージが設けられ、天気の良い日には学生たちが大樹の下で読書をしたり、昼食をとる姿が見られます。ごく最近の変化としては、地下鉄工事に伴う四谷通りの拡幅工事も一段落し、キャンパス内では新1号館の増築が完成し、また、旧1号館北館が取壊され、その跡地に総合研究棟（仮称）の建設が始まっております。

教育に関しては、工学部の平成11年度卒業生数が約830名（累計約26,600名、内旧制約1,600名）、その約77%が大学院へ進学しております。学生の学力低下が大学進学率増加に伴い顕著化していることが新聞等で報道されていますが、名大生も例外ではなく、特に、「考える力」の低下が着実に進んでいます。このため、講義方法のテキストが各教官に配布されるなど、講義方法の工夫が強く求められています。教養部廃止後の教養教育の見直しも頭の痛い問題です。研究面では、研究費における外部資金（科研費、受託研究など）の割合が増加してきており、特許取得の重要性が強調されています。教官の研究費は教官自らが稼ぐべしという時代がすぐそこに迫ってきています。

国立大学の独立行政法人化の動きと相まって、大学の外部評価の実施準備が急速に進められており、平成13年の秋までには工学部のすべての学科・専攻が外部評価を受けることとなります。組織改革に関しては、平成13年4月に環境学研究科（工学部からは建築学教室と土木・地圏の一部が参加）が新設され、加えて、他の大学と同様に、生命科学や情報に関する新研究科も構想されているようです。

大学と社会との連携、大学から社会への情報発信などが強く叫ばれている現在こそ、我々教官が強く心に留めるべきは、大学のあるべき姿を、真の「改革」とは何であるかを見失わないことではないでしょうか。今後とも、諸先輩のご助言とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

3

新ミレニアムを迎えて

兼松 昭 (昭和39年卒)



東山会関西支部で講演を依頼され、大学卒業後、繊維機械関係一途の経験しか持ち合わせていない私が、何をテーマにお話できるのかという戸惑いの中、たまたま20世紀も終わろうとする時期でもあり、これから私達をとりまく社会、環境、経済がどうなっていくのだろうという日頃の漠然とした疑問を「新ミレニアムを迎えて」(雑感)と題して少し思いをめぐらせました。とりとめもなく浮かんできた、私の幾分無責任な雑感を要約します。

1. 地球生命と人類

- 1) 地球は46億年前に太陽系の一員として誕生以来、自転の速度が徐々に遅くなり、今から43億年後には自転が停止する計算になります。その意味で地球は絶対に永遠ではなく、理論的に有限の世界ということを再認識する必要があります。
- 2) 400万年前に人類がアフリカ大陸で発祥し、霊長類として今日まで地球上の全ての生物を支配し、世界人口も1900年の16億人から2000年には60億人、そして50年後には100億人と予測され、その後安定化するといわれていますが、最悪280億人(2150年)と予測する科学者も居ます。日本の人口は江戸時代の3000万人から現在1億2600万人に急増していますが、少子化の影響でいずれ減少に転じます。

2. エネルギー源は有限

- 1) 残存エネルギーについては色々な説がありますが、下記の通りいずれにせよエネルギー源は有限であり、イエスキリストの誕生から今日までの年月よりもはるかに短い間に資源の終焉に至ることを再認識する必要があります。

石油埋蔵量	43年
天然ガス	63年
ウラン	72年
石炭	231年

- 2) しかも、これらの資源をほとんどこの100年の間に人類が戦争という悪行と自らの豊かな生活のために使い尽くそうとしている点に我々のエゴイズムがあり、我々自身が誰に反省を促される訳でもなく、むやみに経済、会社利益、金もうけ、

幸せのためだけに現在を謳歌し、将来の子孫の存在をかえりみない身勝手な行動をし続けているのがまぎれもない事実です。ある科学者は、人類がこのまま横暴に突き進めばあと2~300年で滅亡するだろうと推測しています。

3. 社会の歪み

池田小学校の痛ましい児童殺傷事件、社会の見て見ぬふり、非干渉主義、学級崩壊、粗悪なテレビ番組やゲーム、メル友など無秩序な情報化社会、これらは自然に出来たものではなく、いずれも我々自らが設計した近代社会の必然の帰結としての現象・結果であり、「いまどきの子供は」と第三者的に批判している我々大人がむしろこれらの原因を作っている側であることを肝に命じなければならない。社会の歪み是正に何らかの形で我々大人が参画して少しでも役に立つべき時代が来たと思われませんが、如何でしょうか。

以上

社会の歪み

過去	現在	未来
躰 地域社会 学校教育 家庭教育 親爺の威厳	「学級崩壊」 日本の全局面に 「崩壊」の危機 非干渉主義の徒 見て見ぬふり もたれ合いの積み重ね 情報化文明 飽食時代 子供の頃から消費者 テレビ、雑誌、 ファッション、ゲーム、 インターネット 携帯電話、茶髪液 すべて大人がつくっている	巨大な情報通信網の制御 機能は何処に、誰が？ コンピューター文明； パンドラの箱 （一切の罪悪や災い） 高校生に21世紀は希望のある社会になるか？ 中国 : 89% イニス アメリカ : 63% イニス 韓国 : 63% イニス 日本 : 35% イニス

4 第 5 回 会 員 訪 問

訪問先 東陶機器株式会社

取締役会長 江 副 茂 氏 (第 14 回・昭和 3 0 年卒)

訪問者 支部長 白 木 博 明 (第 7 回・昭和 2 3 年卒)(聴き手兼記録)

(写真)



去る 6 月 20 日、梅雨の合間をぬって、北九州市小倉北区にある東陶機器株式会社本社・小倉第一工場に江副会長を訪問した。初対面である。今や九州に本拠をおく製造業として売上げトップ、TOTOの愛称で知られる生活環境産業として、九州地域経済圏から世界企業を目指し、着々と手を打たれている。江副氏は物腰柔らかく、言葉物静かなゼントルマンで、九州の陶器衛生機器産業に機械技術を加え、西洋で普及のビデを温水洗浄便座「ウオシュレット」として、常務時代に、新事業創出の為、開発された。社長就任は j2/6 月、不況の向かい風の最中であつた。それを冷静な判断で時代背景を的確に読み、ピンチを見事にチャンスに変え、かつての石炭、鉄鋼の地域産業をハイテク、清潔、省エネ、環境の産業として、地域社会も大きく貢献されている。

会長就任後の肩書は経団連、経済同友会、工業倶楽部、生産性本部、活性化協議会、発明協会、等の地区財界の代表や公安委員、名誉領事、記念財団、等、約 40 の要職に就任され、この春、勲二等瑞宝章を受賞された。

社長時代と違い、会長職は対外活動が主体となり時間管理が難しく、事実この日も午後 2 時から 4 時までのたった 2 時間、総理なみのスケジュールである。秘書がサポートするとは言え、激職の合間で十分な時間がとれず、初対面ゆえ、意を尽くし得なかつた悔いがある。、同子の更なるご健勝ご活躍を祈る次第である。 (文盲白木)

白 木

お忙しい中、支部長訪問を快諾して頂き、21世紀初の“関西支部便り”に東山会で著名な江副様に登場していただき厚く御礼申し上げます。またこの春、勲二等瑞宝章をお受けになられ、既に藍綬褒章もお受けになっておられ、重ね重ねおめでとうございます。先に日本機械学会九州支部長も就任され、機械工学の教育、研究にも精通されておりますが、本日はご活躍を通じ、特に東山会のフレッシュマンや近く会員になる学生諸君にも有益なお話をお聞かせ願います。まずは生い立ちと名古屋大学時代のことから。

江 副

生まれは、中国、当時の関東州大連市です。終戦は大連で、旧制中学4年生の時でした。帰国後、名古屋に移りまして、県立旭丘高校の第1回として卒業、名古屋大学工学部機械学科に入学しました。

白 木

新制高校の第一回として、新生日本の歩みと一致しますね。まだまだ日本は大変な時代でした。

江 副

大学卒業後、昭和30年に当時は東洋陶器株式会社という社名でしたが、当社に入社しました。入社後、主に水栓金具の技術、開発関連の部署を歩んで来ました。その後もウォシュレットやシャンプードレッサーなどの商品開発を中心にやって来ました。平成4年社長に就任、平成10年会長に就任しました。

この間会社の仕事以外では地元北九州市をはじめ、九州の諸経済団体の役職を拝命し、地域社会に貢献させて頂いています。

今年から、リビングアメニティー協会という住宅設備産業界の団体の会長職を拝命し、今後とも生活環境の改善と発展に尽くしていきたいと考えています。

白 木

大変な激職ですがご趣味や健康法に関することを聞かせてください。

江 副

趣味はスナップを中心に写真を長年やっています。以前は海外などに行くと400~500枚ぐらい撮っていましたが、最近は仕事が忙しく、時間が取れず残念に思っています。こうした歴史の積み重ねでカメラは十数台になりました。

他に健康法を兼ねてゴルフをやっています。先日コースを回ったとき、もう蒸し暑く、ハーフで上がるかと思ったのですが、そのままラウンドしたところ、不思議とインの方が楽に廻りました。日ごろゴルフをやっているので体が慣

れてくるのでしょう。積み重ねの大切さ継続することは健康法も含めて何事にも大切です。

白 木

これからの日本を背負う若い人にも接しておられると思いますが、後輩諸君に特に、いっておきたいことを。

江 副

最近の若い人には、いまさら儒教の教えではありませんが、形と心というものを大切にしてもらいたいと思います。形は表に出ているものばかりでなく、例えば何かを頂いても感謝がないとか礼儀に欠けている気がします。過去の歴史をふり返りますと、明治維新、第2次世界大戦の終戦といった大事件の後、すべて若い人が頑張って新しい時代を創りました。学生諸君をはじめすべての面で若い人の活躍のチャンスと認識して頑張りたいと思います。

私達を含めかつてその時代の若い人が次の世代の社会の基盤を築いて来ました。今の若い人もぜひ積極的に自ら社会に働きかけてもらいたい。

時代の流れは構造改革、規制緩和へと向っています。大学も民営化の流れになっています。これまでのスタイルは変えて行かなければならない時代を迎えています。

今、小泉総理はご自分の言葉で自由に発言され、世間にその動きを植え付けようとしています。若い人の中にも、国際的視野で自由に発言する人も増えて来ました。それを行動に移し、新しい大学を築いて欲しいと願っています。

白 木

短時間のため、先に結論を頂いた感じです。江副会長に会うため、私は御社のPR資料は勿論、今年の新聞雑誌の記事はすぐ目に入りました。誰もが一日一回はお世話になるTOTOのマーク。我々戦前の生活を知る者にとって平和の有り難さを楽しみ知ることができ、私はこれも機械工学の英知、社会貢献の最たるものと思っています。時間があれば光触媒によるハイドロテクトタイルや光通信向けのフロンティア21計画の新技术の話を拝聴したかったのですが残念です。これらは都市の美観を促進し、自動車の洗車から解放、ITの要素技術で裾野の広い夢のある新技术でありながら余り知られていません。またTOTOは住設業界では数少ない海外展開をしておられ、最近はリフォーム市場向け経営戦略基盤強化でジョイントなどにも触れて頂きたかったのですがまたの機会に譲りましょう。

今後のご発展を祈り、お礼の言葉に変えさせていただきます。
有り難うございました。

5 我が生涯学習 - 俳句への道



松住清文（昭和23年卒）

父は以前、脳溢血で6時間後に急逝してしまい、8人のうち7番目の私は、東京への養子の話もありましたが、「名前が変わるから嫌だ」と母に答えて、それっきりになりました。昭和12年小学校5年生の国語で、俳句については答案で、5,7,5と書いた者は案外多かったが、『必ず季語が入ると』と書いたのは松住一人だった、と当時全学科を担当しておられた学級担当から答案を分ける前に皆の前で言われました。

私は早く稼がなくてはと工業学校へ願書を出していましたが、上記の学級担任が母や父の後継者の兄に、私を旧制富山高校の尋常科へ入試を奨められました。これは各学年40名前後の2学級のみで、旧制高校へのコースですが旧制高校では各中学校の公募入試もあって各学年300名前後に膨らみ、文理科6学級になります。従って尋常科は各学年での落第があります。その尋常科へ受験してみたら合格してしてしまいました。尋常科の授業には高等学校の教授がかなり担当されていまして尋常科専任の先生も一流の先生がおられ、例えば一年生の木俣修先生は授業中、東京からの電話で「白秋先生が危篤なので」と至急上京され『あららぎ』を後継されました。理系も一流の教授陣で、木俣先生にほめられ、数学の先生にほめられて、三年生になってもどちらにするか決めていませんでした。時代がどんどん変って兄も出征し、私が留守家族を守る立場になり、さらに南方向けの特別堅くて太短い『陣中蠟燭』を軍から発注され、この製造上の困難を解決したことで受注が急増、日本の理事にされてしまいました。そしてやはり早く仕事につかねばと理工系にしました。『蠟燭を作るものがいなくなるから落第してくれ』と母から神妙に言われましたが、『大学に行っても蠟燭を作りに戻るから』と富山に最も近い名古屋帝大にしました。昭和20年3月下宿探しに名古屋についた夜、空襲があり、広小路や栄町の悲惨な状況を見て、どこの誰とも分からず、真っ黒に焼かれてトラックに積まれてるならば、せめて手間暇かからぬ俳句をノートに残そうと思いました。7月に機械学科疎開先の布袋町の路上でA4版程の白紙が一枚落ちており、俳句のメモ用紙になるか?と拾って裏を見ると「次は富山」とアメリカの空襲予告なので、『陣中蠟燭』の説明をして、国鉄乗車券を入手し直ちに帰宅、自宅の方は蔵も機械も原料も全焼し、残ったものは三昼夜かけて疎開した『陣中蠟燭』だけになりました。

終戦後、東山の機械学科で俳句会発足の誘いがあり数名の参加者に入りました。卒業後就職した会社で、花見に誘われて行きましたら偶然にも尼寺での10名程の俳句会でした。それから毎週15句づつ持ち寄り参加する事になりました。自己にこだわってはいけません。謙虚に大自然の姿からの声を聞き、それを俳句にして、読んだ人に伝わるかどうか?。自己を客観視する習練になってゆきました。

新技術、新製品の開発姿勢や、より良い人間関係に繋がる　　と言うよりも生きざまになったか、と思います。東海、近畿、大和に立派な俳人がいらっしやいますので皆様とそれらの人との出会いを期待しています。

立山を仰ぎて若し去年今年
生涯を燃やすが如く大夕焼

6-1 元副支部長 永田直明氏（昭和18年卒）

を偲ぶ

雨宮陽三（第2回、昭和18年卒）



支部発展に多大の尽力を戴いた永田直明君平成12年
12月15日 ご永眠。

奥様よりの御一報は「まことどうして？」の一語に尽きる一瞬でした。数年前より気管支に多少の不調をお持ちではありましたが、徹底した検査と入院御加養の甲斐あって対談中の咳き込みも軽快、9月には81歳までご勤務の(株)多久製作所常勤監査役として最後の大役株主総会を無事終えられ、以後顧問として社史編纂を担当されることも決まり、2人で「老後の所を得たではないか！」と慶び合った矢先に肺炎の犯す所となり、遂に帰らぬ人となられた由。

顧みますれば、永田君は九州は熊本県に生を承けられ、剛毅木訥の気風をもって鳴る第五高等学校を経て、戦雲漸く急を告げる折から縁あって昭和16年我らが名古屋帝国大学工学部機械学科(第2回生)に入学、「話題と笑いの有るところ常に永田在り」の観のうちに昭和18年9月卒業(戦時下技術者需要 急のため)、同時に海軍造兵技術士官として軍務に服しつつ終戦を迎えられ、しばらく九州の地に勤務されて後 海外貨物検査(株)のインド駐在員として活躍、在勤中には恩師であり五高の大先輩でもある(故)津上教授をはじめ多方面の方々のご案内、連絡、紹介等労を厭われず対人関係を温かくご勤務。

帰国後大洋鋳機(株)を経て(株)多久製作所社長室長より常勤監査役に就任、大阪地区にご在住、お仕事柄名古屋、東京にも出張多く、機会を見つけては東山会名古屋本部同東京支部との情報・意見の交換に努力、大阪市立大学にご在勤中であつた(故)古市教授をはじめ村上教授(第2回)、星野教授(第4回)の温かいご支援を戴きつつ関西支部の形態を整え、支部会の定例化、出席への勧誘等会の発展に随分と、時には黒子的にも尽くして戴いたものと深く感謝しております。

また、さらに永田君は五高同期(渡鹿会文理270名)、名大機械科同期(34名)の関西幹事としても奔走、「人との出会い」「旧交を温める」ことの大事さを充分弁え、古人の言う一期一会の境地を目指しておられたのではないのでしょうか。

生老病死は世の習い、好漢永田君も天命は如何ともなし難くとは申しながら「新世紀の新春を目前に！」と思うのは私に限らず同君を知る者は皆同じでしょう。

斯くなるうちは会員一同永田君のご奔走、好意を無にすることなく 関西支部会の一層の発展、充実に協力して行くことが最善のご供養と思っております。

永田君、君の温かい人柄、愉快的談論風発の面影を心に描きつつご冥福をお祈り申し上げます。どうか安らかにとわの眠りにお就き下さい。

謹んで偲ぶ言葉と致します。

光崎雅夫君（昭和28年卒）を偲んで

小澤喬二（昭和28年卒）



我々同級会は、潤山会と呼び、ここ数年は6月上旬に枚方で集まっている。今年は3月上旬に期日を早め、長年グループの柱役を務めた早川君の藤沢への転居送別会をかねることとした。光崎君は折から風邪ぎみとのことで、残念ながら欠席された。

それから丁度一週間後、我々は彼と長いお別れをせねばならないことになってしまった。

潤山会は、我々クラスのシンボル語「リユーブリカント(潤滑油)」の「潤」と、東山会の「山」を合成した同窓会名で、20年ほど前に名づけられた。光崎君は、同窓や母校の情報を、折りにふれて我々に知らせてくれたし、我々の色々な集いをこまめに企画し、細やかな配慮で皆を引っ張ってくれた。潤山会の命名も、このような集いの中でうまれた。

東山会関西支部では、昭和50年代中頃に幹事役を務め、とくに名簿整理のEDP化について、本部との間で種々の推進、接渉の労をとられ、地味ではあるが支部活動の基盤づくりに貢献された。偶々、私の手元に「第20回、関西支部総会報告」と題する彼の手記が残っている。これを見ると、丁重かつ几帳面でしかも的確に人の心情を汲んだ文章に、思わず彼の面影を彷彿とさせられ、胸のつまる思いがする。

彼は年毎にテーマをきめて、俳句や語学など次々にチャレンジして、自家薬籠のものとして覚えている。中でも長年研鑽を積まれた謡曲、仕舞いと能は、彼の人柄、行動、作品に大きな影響を及ぼしていたのではないかと思う。彼の謡曲との出会いは、学生時代、或いはそれ以前であったかもしれない。私を含めて級友何人かは、彼に誘われて「謡曲同好会」を作った。この中、卒業後も中断することなく謡曲を続けたのは、結局彼ひとりだった。

「駆け出しの自らの実感を以ってするならば、謡曲はただ緊張の芸であり、腹を据える術だと言うに尽きるように思えます」との初期の感想が、やがて「能は天地自然の幽玄の風情と、偽りのない人の心を、写実的な物真似に託し、それに象徴というスポットライトを浴びせて、簡素に舞台の上にその情趣をかもし出す」と、能への傾斜を卒業文集で述べるようになっていく。いま改めてこの文章を読み直すと、その気合いと思い入れの深さは、我々同好のただ大声を張り上げるたのしみとは、全く異なっていたことを思い知らされる。

学生時代「豊かな城の王子様」と評され、髪を真中でピタッと分け、背筋を立てた小柄で端正な姿は、今もはるかに思い起こされて、その面影は離れがたい。

ここに謹んでご冥福を祈り、静かに次の世でのご交誼を念じて 合掌

昭和4年6月9日生まれ、昭和28年より平成元年まで松下電器産業(株)に在社、平成13年3月16日、享年71歳でご逝去

6-3 第3回「東山へ帰る日」に参加して

山本順一（昭和23年卒）



去る6月8日、第3回「東山へ帰る日」が開催された。本来なら一昨年の第2回に参加すべきだったし、又予定もしていたが、仕事の都合で参加出来なかった。残念な気持ちで「50年後があるさ」と思っていたが

今春同期の白木氏から

「当年度でなくても参加したら良いと思う」と連絡があり、段取りを始めた。

理事で旧知の丸井悦男岐阜大学教授（S39年卒）に要領を聞くと、副会長をされている藤田秀臣名大教授（S37年卒）を紹介された。

初めての電話やFAXの連絡に親切・丁寧・迅速に対応して頂いた。担当の田中英一教授（S47年卒）の紹介を受け、又資料を送付して頂いて、参加の手続きをする事が出来た。

その後、同期の友人を誘ってみたが、「もう行ったよ」「日程が合わないね」とかで、結局一人で行くことになった。

当日の午前中は、理学部・天文学のドクターコースの最終学年で、論文作成に取り組んでいる姪に会って、キャンパスの様子やハワイ・南アフリカの天文台のことなどを聞き、又激励した。

午後から「東山へ帰る日」の行事が始まり、昭和25・26年卒業の方々が、付添いも含めて30名程集まり盛会でした。

安田教授の研究今昔の話は車両の振動に関するものであり、テクノフェアで公開申の研究室にも振動研究室があった。私が卒論で勉強させて頂いた下山教授（故人）の流れを汲むものであろうと懐かしかった。

懇親会の終り近く

「その節は色々とお世話になり有難うございました。電車の都合で先に失礼しますが、今後ともよろしく」と私の処へ挨拶にこられた紳士。

とっさのこと、55年前の状況を思い出せなかったが、私と同期で入学し、疎開先で共に学び暮らし、3年遅れて26年に卒業されたKさんです。その当時の面影が残っており、懐かしさがこみ上げてきました。

祝賀会や懇親会を通して、鈴木会長や藤田教授・田中教授が終始気を使われ、エスコートして下さった。又研究室を案内し説明して頂いた先生方やスタッフの方々にも心から御礼申し上げたい。

思いつきで参加し、ひよんなことから投稿まで引き受けてしまいましたが、本当に「東山へ帰って」良かったと思います。

10年後に「再び東山へ帰る日」に参加して、キャンパスの先生方や学生達に会ってみたいと思っています。

旧知の親友や未知だった新しい同窓の方々から頂いた数々のご好意、ご厚情に改めて感謝し御礼申し上げます。



驚田俊司（昭和 32 年卒）

幹事さんより参考のためにと標記の件で投稿の依頼があった。皆さんのご参考になるようなことは書けないが経過と見聞したこと程度であれば、とお引き受けした次第である。

会社の年一回の定期健康診断で四十台半ば頃、胃のレントゲン検査で異常があり胃カメラの検査と組織検査を数年置きに受けるようになった。原因は胃潰瘍が自然治癒したような痕があるとのことであった。

平成 2 年 5 6 才の時の検査でこの痕跡に新たな変化が認められた。それはこの痕跡の近傍に一列に並ぶ形で二つの新たな腫瘍が出来これはガンであると診断された。組織検査はマイナスであったが「細かくスライスして検査すれば必ずガン細胞が見つかるはず、このまま放置すれば寿命はあと 5 年でしょう。すぐ手術を。」との検査結果であった。自覚症状もなく健康には自信があったのでこの結果は意外であった。

手術は看護の都合により愛知県がんセンターに決め紹介状を持って訪れた。「なんでわざわざこんな遠方まで。」と言われたが事情を説明して了解をいただいた。センターの消化器外科は 6 F 東棟、内科は 6 F 西棟で同じフロアーにあった。消化器外科の医師は 10 名程度、殆どが名大出身で 40 代と思われる先生が多かった。特に小生の担当医は若く 30 後半位と見受け、大丈夫かと不安を感じるほどであったがこれは思い過ごしであった。「国内のがん名医録」に担当医をはじめ殆どの医師がこれに掲載されていると知人より聞かされたからである。この陣容で一日に二人のペースで手術が行はれている。

外科のベッド数は約 40 床で患者さんの内訳は胃が一番多く次が腸、少数で肝臓、すい臓等であった。いろいろな患者さんがいた。胃腸の切除手術が 4 回目の人、これでも生命が保たれているすごさ。関東からすい臓が悪いと行って来た人。親子で経営している工事屋さんで万一のことがあってはとベッドで息子さん宛に書き物をしていた胃の悪い人。稲沢から来た人は現地の病院で手遅れのため手術は出来ないとはいわれここへ駆け込んできたとのこと。「三日三晩、一睡も出来なかった。」と。ここでは「何も心配することはない。手術をしましょう。」とのことだったと笑顔で話していた。この患者さん 3 週間の入院で早々と退院していった。

胃の手術には全摘出と上部 2/3 摘出、下部 2/3 摘出の 3 通りがあるようであり下部より上部摘出の方が回復に時間がかかるようである。又、手術時に点滴の針を腕または首下の胸に埋め込む二通りがあり、これは退院まで取り外されないののであるが腕の人は術後の経過が軽く胸の人は重いように思えた。

小生の手術は平成 2 年 5 月の連休明けであった。胃の上部を摘出した。傷口の痛みが激しく食も進まず回復は良くなかった。特に 37 度 2 分程度の微熱が続き、看護婦さんは「なかなか熱がひかない」と首をかしげていた。先生は「熱は悪い所があるか

らでるもの。鷺田さんはどこも悪くないのでこの程度は平熱である。」とは言はれても、はたして微熱があって退院ができるのかと不安の日々であった。6月末にようやく退院の許可が出た。微熱の原因は胸に埋め込まれた点滴の針の傷口にあったらしい。針を抜いてからその後熱は36度台に戻った。敏感な体質であったのか。これまでの不安と悩みから解放され晴れて退院する日を迎えることができた。

体力が回復し本調子に戻るまでには5年位もかかったであろうか。手術は体質を変えたと思っている。体重は手術前に比べて10kg減少、血圧は高血圧から低血圧に、貧血、血糖値の問題、等々。このように手術前の健康は取り戻せないものの今ではゴルフや海外旅行にも行けるようになった。5年後に突然がんセンターよりその後の回復状態に関する調査がありこれは統計資料となるのであろう、良好と回答した。

入院時、何でだろうと思うことが度々あった。手術前日に「私が手術に立ち会う担当看護婦です。」といってわざわざ病室まで尋ねてきて5分程話していった。手術室ではどうせ自分は眠っているから、挨拶抜きでも良いのにと考えた。手術直後まだ麻酔が完全に覚めぬ病室に移動用レントゲンをベッドに据付け腹部を撮影した。手術で不具合な所もあったのかと心配した。退院するとき先生より、輸血はしなかったことを伝えられた。手術には輸血は当然と思っていたので、手術がうまくいったのかなという程度に受け取った。昨今の医療事故のニュースでなるほど、そういうことだったかと納得した。血液製剤の危険性を当時すでに先生は認識されていたのだろうか、最近小生の一年前以前に手術で輸血を受けた人はc型肝炎の検査を受けるよう多くの病院から発表された。がんセンターもこの中に入っていた。

退院直後早速ふらつく足で栄町をぶらついた。自分の足で自分の行きたい所に自由に行けることがどんなに素晴らしいことかと思いながら。

卒業生数

	平成11年度	累 計	旧 制
文学部	139	5,599	185
教育学部	73	2,529	
法学部	178	6,647	228
経済学部	236	8,985	310
情報文化学部	100	278	
理学部	237	8,174	349
医学部	99	4,361	1,437
工学部	833	25,029	1,643
農学部	197	5,863	
合 計	2,092	67,465	4,152



少々古い話になりますが、文革（'76年10月終結）末期から新時代への転換期に中国（武漢）での工場建設の仕事に携わり、激動の中国を目の当たりにしてきましたので、少しご紹介したいと思います。

'72年9月田中首相が北京で毛さんと握手して日中国交が回復し、最初のビッグプロジェクトとして鉄鋼薄板の熟間圧延工場の商談が始まり、私はその技術の責任者として参加しました。結果'74年6月に成約に至り、'80年春無事検収に辿りつきましたが、その間は正に中国にとっての激動の時代でもありました。

'75年夏から機械の出荷が始まり、海上輸送は中国の担当でしたが、上海が4人組の拠点であった為揚子江輸送用の内航船への積換えが妨害されて船が戻れないため、日本からの出荷が大幅に遅れ、これが最初の試練でした。次ぎが建設労働者のサボタージュです。後で聞いた話ですが4人組はこう呼びかけたのだそうです。“人間は生き物だから体調の良いときも悪いときもある。体調の良いときはもりもり働いて国家建設に貢献してくれ。一方体調の悪いときは誰にも気兼ねなく休養ができ且それによって一切差別されることのない労働者の天国を作ろう。”これだけを聞いたら真に結構なスローガンですが、この結果自称体調の悪い労働者が続出し、彼らに体調が悪いようには見えないなどと言った管理者は忽ち三角帽子を被せられて、大衆裁判にか4すられるといった事態になったのだそうです。そして出勤してきた労働者の大半は直ぐ昼寝を始め、昼に会社支給の昼飯を食べたらまた昼寝、退社時間になったら起上って帰宅するという状況で、工事は遅々として進みませんでした。

日本からの出荷後の仕事は中国が中国の責任で行い、日本側はスーパーバイズ（技術指導）する責任を負うという契約でしたから、現地工事が遅れても、それで日本側が責任を問われる事はないのですが、やはりいらいらのしどろしどろでした。こんな状態は4人組失脚後も1年以上続きましたが、その後は改善され、紆余曲折の末'78年12月に熟間負荷試運転にこぎつけることができた次第です。

一般市民の服装は、文革中は人民服一色で、文革末期に解放軍の女性兵士の制服にスカートが採用されたのが話題になった程度でしたが、4人組失脚後は凄まじい勢いで

変わりました。また色々の規制が緩和され随分と息苦しさが少なくなりました。でも政府は手綱を緩めたり時には締めたりと頻繁に変更をし、例えばダンスブームが起きてホテルのエレベーターホールが従業員たちのダンスの練習場になったかと思うと、或る日人民日報に批判記事が出た途端彼らの姿が見えなくなるなど、変化の激しさには驚かされました。お上の顔色を伺う習慣が芯から染み付いているのですね。

その後も不思議に中国との縁が続いていますが、やはり最初の仕事が一番深く印象に残っております。なお邱永漢氏の書物の言葉ですが“大和民族は職人であり、漢民族は商人である”というのは言い得て妙だと思います。彼らはもうこれ以上は相手から譲歩を引き出せないと確信する迄は妥協しない民族という印象が強いです。

デジタルビデオディスク（DVD）開発について

松下電器産業（株）

後藤芳和（昭和48年卒）



最近、レンタルビデオショップに入ると、DVDコーナーが充実してきており、DVDも本格普及に入った感じがします。思い返すと開発から早や10年の歳月が流れていました。この機会に、DVD開発を振り返ってみようと思います。

1980年後半になって、デジタル画像圧縮技術、短波長半導体レーザーが実用化レベルに近づき、電機メーカーはCD（コンパクトディスク）と同じ直径の12cmディスクに2時間の映像が入るDVDディスクの開発に着手しました。ディスク容量をどれくらいにするかが一番の課題で、これにより画像品質と音声チャンネル数が決まるとともに、ディスク構造も決まります。ディスク容量が4GB未満ならCDと同じ1.2mm厚ディスクの採用が可能で、4GB以上なら0.6mm厚ディスクの採用と考えていました。ソニーがCD互換重視で1.2mmを、東芝は0.6mmを推進しており、松下は0.6mm本命としながらも1.2mmも配慮していました。そして、米国映画業界からの厳しい要求もあり、ディスク容量は技術裏付けとは関係なく、3.7GBからスタートした容量は、あっという間に5GBまで上昇しました。最終的には、松下が0.6mmを採用することで体制が決まり、ソニーの提案も採用することで容量を4.7GBに決定し、DVD規格一本化が図られました。予定外の容量増加、CDとDVDとの互換性確保、販売期限厳守と、事業化に至るまでの技術者の苦労は大変でした。映画業界の要求は、135分の映像、8カ国対応、コピー保護技術、地域限定の再生許可等があり、DVD側がこの要求を真摯に受け止めたことが、1996年に出荷してからわずか5年でDVDを世界的に普及したことに繋がったと思います。ただ、地域限定の再生だけはユーザーには迷惑なもので、米国で購入したソフトが日本で再生できないのはつらいものです。

私は、その期間に、原型開発、DVDフォーラムでの技術審議、規格書作成、各国でのデモや説明会、JISやISO標準化規格の作成等に参画することができ、一生に一度できるかどうかの規格化と製品化の業務に携わることができ、開発の醍醐味を味わうことができました。

しかしながら、DVD事業はなかなか厳しいものがあります。DVDは高付加価値商品として期待されたわけですが、韓国、台湾メーカーがすぐに技術を修得して低コストの商品を販売するようになり、CDと同様なコスト競争にさらされています。IT技術、グローバル化の波が国境をなくし技術移転を容易しています。DVDライセンス会社はDVDの開発のために多大な投資をしてきてきました。健全な本場形成のためには、DVDライセンスを受けるメーカーから正当な特許ライセンス料を支払ってもらうことを痛感しております。私の現在の業務は、開発側から知財業務を支援しており、研究開発とはまた違った面白みがあります。DVDのライセンス収入が増えて、個人に還元される特許使用報償金も増えることを祈っています。

母校を訪ねて・・・

松下電子部品（株）

白髪昇三（昭和52年卒）



6月6日（水）小雨の夕方、22年ぶりに名古屋大学を訪ねた。

珍しく名古屋への出張があり、“仕事が早く終われば、名大に行ってみよう！”と前日から決めていた。栄から本山まで地下鉄に乗った。本山の交差点に2つあったパチンコ屋はそのままあるのだろうか？などと考えながら地下鉄の駅を出た。方向音痴の私は、2つあるパチンコ屋が方向を決める目印だったのに、「新世界」の方は、「東海銀行」になっていた。記憶を引き出し、名大の方向に歩き出したが、左右には見たこともない建物がずらりと並んでいて、昔の面影は微塵もなかった。20年ぶた昔の年月を感じた。

大学に着くと『名大祭まであと0日！』の立て看板が目飛び込んできた。名大祭の初日だったのだ。小雨が降り、夕方になっていたので学生もまばらで、昔のような名大祭の盛り上がりは感じられなかった。名大で研究しているはずの同級生の居場所を聞こうと、卒業した機械工作の研究室を訪ねた。ドアを開けて入っていくと、昔お世話になった千田さんが技術員として学生と実験をしていた。同級生の連絡先を千田さんに聞き連絡をとると、ちょうど会議が終了した所だったので、会って話すことができた。彼は、電子機械工学科、第4講座：集積機械工学講座（末松研究室）の助教授になっていた。工学部2号館の彼の研究室は、学生の頃の面影を残しており、ひとときを学生気分で過ごす事ができた。昔の思い出話（大学祭にダンスパーティをやった事など）や同級生の現況（あいつは機械科を出たのに営業所の所長をしている）、子供の教育費が掛かる時期だとか、携帯電話やインターネットなど通信費に金がかかる時代になったとか、自分の仕事や彼の研究の事（最近の技術進歩のスピードが速くついていくのも大変な事、助手の数が減り雑務が増えて研究に没頭できない事、大学の民営化や研究費の自己調達など大変な事）等、話しているうちにあっという間に1時間半が過ぎた。22年前にタイムスリップしたような懐かしいひとときだった。名残り惜しかったが、再会を約束して帰阪した。

さて私は、松下電子部品（株）に入社以来新製品開発に携わっている、パソコン用のフルキーボードSW、光磁気ディスクドライブ、CD-ROMドライブ、小型サーマルプリンタと色々な製品の開発を手掛けて来た。電子部品事業の中では珍しく、ユニット製品ばかりを手掛けてきた。1999年2月にNTTドコモが「i-モード」を発表以来、携帯電話の普及は目覚ましく、今や日本では固定電話の台数（6000万台）を上回っている。これからのネットワーク社会では、「いつでも、何処でも、欲しい情報入手！」即ち、「24時間、モバイルでインターネットする」そんな時代になってきた。この流れに乗ろうと、現在は、移動体通信関連の商品開発に取り組んでいる。今までのインダストリー分野と異なり、この商品をどのお客様にどんな使い方をして戴くかを提案することから始めなくてはならない。前途多難ではあるが、将来花開くと信じて頑張っているところである。今回母校名大を訪ねたことによって、技術者としての原点に立ち返り、明日への意欲を新たにすることができたように思う。

7 インフォメーション

高翔

名古屋大学工学部航空学科同窓会

会誌名“高翔”に航空学科の的確な志を感じる。昭和15年名古屋帝国大学理工学が発足した応化、電気、機械、金属と共に5学科の一つである。昭和17年31月より22年3月まで6回の卒業生を出したが終戦と共に航空機の製造は禁止、航空学科は廃止、学生は機械、電気に吸収され、サンフランシスコ対日講和条約で、昭和31年航空学科が復活した。現在は大学重点化で大学院工学研究科航空宇宙工学専攻となり、少数定員で他に比べ会員数は少ない。筆者が2年生のとき、航空学科からの転入者と外地からの到着者でクラスメイトが大幅に増えた。航空の大学院の秀才が演習を見ておられたのを思い出す。

平成6年4月発行の第16号をお借りした。次号を準備中とか。会員は少ないが中々の力作寄稿が多い。天文学、ロケット、NASDAは勿論、漢詩、カオス、に関する力作、個人の便りが多数掲載され、会員の消息が相互に通じ合う感じである。

航空の卒業生は機械系メーカーが多いが最近では航空運行会社、宇宙開発事業団、航空宇宙技術研究所にも入り、宇宙で活躍する事を目指す人材も多いとか。会長は大森幸衛氏(昭和17年卒)

資料は大学院工学研究科マイクロシステム専攻の吉川典彦教授(昭和49年航空卒)からお借りした。厚くお礼申し上げます。

健友会

名古屋大学工学部分子化学工学科同窓会

以前の化学機械学、化学工学が現在、分子化学工学と言う。新制大学になって航空が復活した年、独立した。昭和31年第一回卒業生を出す。

健友会ニュースレター第10回記念号(平成11年)と第11号(平成12年)を頂戴した。10回記念号は大学の近況を伝えると共に神保元二先生追悼号、第11号は大学の近況、化学工学女性の会紹介など、両号とも“こんなことやっていますと題して講座紹介にページを割り読みやすい専門誌の感じ。一方住所不明者リスト呼びかけには熱心。化学工学の技術の普遍性を感じる。会長は秦浩之氏(化工昭和33年卒)

化学機械の講座は戦前MITに学んだ4人の先生が帰国して、それぞれの大学即ち東工大、東北、京都、名古屋で始めた。その一人が機械学科の岡村教授であることを東山会でも知る人は少ない。先生は講義の後でQUIZと称して関係する問題をテストされた。今では子供でもクイズの意味を知っているが終戦直後に知った英語であった。

資料は大学院工学研究科分子化学工学専攻山田博史助手('00年の肩書)から頂いた。厚くお礼申し上げます。

(S)

名古屋大学航空学科同窓会会報

高翔

第16号

編集：航空学科同窓会事務局
〒464-01 名古屋市中区西千代町
名古屋大学工学部航空学科内

健友会・ニュースレター
第10回記念号 平成11年度

ボリュームアップしたニュースレター、どうぞご覧下さい

新しい機体への期待

大庭 重 (昭和17年卒・名誉会長)

先週ごく簡単に発表した事は全くのミステリーの手で、つい面が曇る向きになり新しい機体ですが、現在各航空機で開発されている機体こそ、この研究のみなかで本報にご報告されている事と思えます。特に航空機開発者は経験者ばかりの多くならずその開発現場は全くの未知の世界に立ち向かい進んでいく事です。その上大半を占める技術開発も経験者で少なくなる事間違いない。経験を積んでいる事によって誠実に研鑽しつづけています。航空機の航空工学や航空機をどのように進めるのか重要な事である事には異論ありません。



大庭 重 (昭和17年卒)

新しい航空機の作りはより従来の型と昔から思っています。新しい機体の開発はその目的と、目的には異なるが国でも目標をしっかりと絞り、航空技術者組織的に開発をかけるれば世界に伍する事が出来る事と確めた例の一つがF-2A (次期主力戦闘機) ですが、ご存知のように国内だけの考えでは進まない村田国瑞氏になってまいりました。まして世界市場向けの旅客機等は国際協力があたり前になりました。各国の高い技術が導入されるのは良い事ですが、戦前の各機の開発にそれぞれ国の個性があったのが懐かしい気がします。

今昔と昔の昔が懐かしくせよ、新しい世界の進歩が目に見えるなら我々も前進しようとするもので、ぜひ日本の航空技術部門を伸ばして胸を張りたい。一月F-2Aや今進んでいる新しいF-2Bブローの事も早く見たい。又各社が海外に展開したF-27にも早く乗ってみたいものです。今航空工学の発展がどのようにならぬとせよ、新しい機体の出現の止まらぬ事を願うのみです。

最近では我々の仲間も航空以外の大きな仕事に就いている人が多く、しかも国際化しているので年に何回か外国出張する人はざらで10年すると海外出張は千時間を超す。なまじの航空関係者より多いくらいである。サイト完結よりた90年でのこの発展を、お互い航空に集った事を喜びましょう。

《機室所：〒232 横浜市中区南上大岡2-17-4》

菅原日勉講演記

大庭 重 (昭和19年卒)



菅原日勉

今から五十年以上前の事であるが、昭和十六年九月二十一日に菅原の北陸のごく一部を占める菅原市に赴いた。私はありていず菅原には関心を持っていないが、菅原が菅原市から遠く人々に知られても菅原と聞かれる菅原日勉を、中庭重と誤解して来たのである。この日中庭重について少し調べておく。昭和十四年航空機工学部三年卒業と私は昔に聞かされた事である。菅原の故に文化財を愛護した。菅原ではじめて自民党の首のあたりに「ブライアール」の存在を予言した事など五十年昔の事である。十二月に上京して文化財を奉じて帰って来た。

そして今年の二月には「高翔会」の発展の方向が多数決で決められた。菅原市に帰って来た菅原は菅原市に成功して菅原市に帰って来た。菅原市の発展である。今、菅原の事は菅原に聞かされている。菅原市が菅原市について聞かされている。菅原市の発展を願っている。五十年以上経っても、昭和十六年の菅原日勉の精神的な光景が菅原市の発展に菅原市に聞かされている。菅原市の発展を願っている。菅原市の発展を願っている。菅原市の発展を願っている。

会長挨拶

分子化学工学科副委員長

これからはじまる新しい工学教育のプログラムの

をきつてエンジニア教育、資格のあり方との見直し

両者とも工学教育委員会

機室所をとりもつる道徳に敬意を

新任教員挨拶

神原元二先生挨拶

神原元二先生挨拶式に出席して

特別：研究紹介、こんなこともやっています(1) - 10 -

特別：最近の講演事情

(ET・EK・EP・高工全・周工総研・機室所・新・秋)

会員の声 第12回同窓会

会員の声：卒業生別の同窓会を閉会 (第12回同窓会)

会員の声：一般会(外山研・中村研同窓会)

分子化学工学科、最近の主な行事

役員名簿

幹事挨拶

会長 新 内之...

教育主任 小野七郎...

菅谷 高治...

小野七郎...

川原 文男...

野村 昭彦...

菅 尚俊...

小林 潤...

橋 淳一郎...

山崎 幸祐...

各講演委員...

8 会員消息

永田直明様 (昭和18年卒)

平成12年12月御逝去

関西支部副支部長を勤められ、支部の発展に貢献されました

光崎雅夫様 (昭和28年卒)

平成13年3月御逝去

関西支部庶務幹事を勤められ、支部の発展に貢献されました

9 平成12年度東山会関西支部総会報告

庶務幹事 荻原稔蔵（昭和43年卒）

第38回関西支部総会は、平成12年11月18日（土）16時 - 20時に開催された。会場は例年と同じく中央電気倶楽部を使用した。

出席者は26名と昨年より8名少なく、又一番若い方が昭和43年卒という事で若手の出席が芳しくなかった。

御来賓は本部の鈴木隆充会長（堀江金属工業社長、昭和33年卒）と早川義一名古屋大学教授（名古屋大学大学院・工学研究科・電子機械工学専攻、昭和49年卒）が御出席された。本部の会長が御出席されるのは数年ぶりだと思う。

1 講演会

時間 16時 - 17時半

司会 清水副支部長

（1）早川義一名古屋大学教授の講演

テーマ「大学の近況について」

最近の東山キャンパスの様子をOHPを使い説明された。早川先生の学生時代と今の写真を対比して示された。鏡ヶ池は昔の半分になった事、中央図書館の確立とグリーンベルトの緑化、本山 - 八事の地下鉄工事が進行中

教育・研究の現状、独立行政法人化の動き、環境学研究科・生命科学研究科を設ける動き、等を説明された。

（2）東レエンジニアリング繊維機器プラント常務 兼松昭氏（昭和39年卒）
テーマ「新ミレニアムを迎えて」

繊維機械を扱っており海外出張が多かった。写真によりポーランド、ドイツ、ベトナム、中国、アメリカの経験を説明された。

資料により各テーマ毎に過去・現在・未来の展望を話された。
世界での根源的な事（地球、人類、人口、エネルギー、社会、経済）に関しOHPで具体的に説明され、興味深く聞く事ができた。

2 総会

時間 17時半 - 18時

司会 青山幹事

（1）白木支部長挨拶

早川先生、兼松さんの御講演に対し謝辞を述べられた。関西支部は昭和26年発足され、以来ずっと続いており、50年の歴史になる。

関西支部に対し本部が支援されており、わざわざ会長が来阪された事に対し感謝の言葉を述べられた。

（2）本部鈴木会長挨拶

5月に会長に就任された。関西支部の活動を高く評価されている。総会兼新

年会は平成12年行われ200名が御出席された。東山へ帰る日は平成13年6月行われる。

財政上の問題をお話されて、挨拶を終えられた。

ここで司会の青山幹事が「名大からもノーベル賞を貰う人材が出て欲しい」と訴えられた。

(3) 会計報告(山田会計幹事) 会計監査報告

(4) 一般報告(深谷庶務幹事)

役員会3回開催、支部便りの内容、案内状の送付状況(送付数302、返事34%)

3 懇親会

時間 18時 - 20時

司会 荻原庶務幹事

写真撮影 深谷庶務幹事

乾杯の音頭 白井さん(昭和39年卒)

白井さんは「ノーベル賞を貰うなら早川先生だ」と言われた。

囲碁同好会の報告 青山幹事

ゴルフ同好会の報告 白木支部長

青山幹事のスピーチ、再度「名大からもノーベル賞を貰う人材が出て欲しい」と訴えられた。小澤さんのスピーチ「技術的にレベルアップする方法」

その後有志が前に出て、学生歌「若き我等」を歌った。次に八高寮歌「伊吹おろし」を歌った。

白木支部長、工藤さんが六高の法被を着て登場された。六高校歌・部歌を配布され、「北進歌」を歌われた。

川口さんのスピーチ「4回生の同級会を行った。東京の学士会館を使った」

有志が前に出て「琵琶湖周航の歌」、「北帰行」の歌を歌った。

工藤さんのスピーチ「医者選び方」

二人の講師を前に御講演に対する質問を行った。兼松さんに対しては「何処からの出处か」、「何時までも若々しくするには」

早川先生に対しては「同窓会が老人会になっている」の質問が出され、早川先生は「40代、50代の会員は多忙だが、その内同窓会に参加する」と言われた。

最後に佐藤副支部長が閉会の辞の中で「近くに自分より年下の医者を持つ事11月14日から行われた国際粉体工業展の様相」を述べられた。

その後清水副支部長の三本締めで締めくくった。

終始和気藹々とした雰囲気だった。

4 囲碁同好会

開催日 平成12年10月28日(土)

場所 中央電気倶楽部

参加者 4名

優勝者 荻原秘蔵(昭和43年卒)

5 ゴルフ同好会は雨の為、中止になりました。

10 平成12年度東山会関西支部会計報告

期間：平成11年11月6日より平成12年11月17日まで

収 入		¥	支 出		¥
11/11/6の総会会費 (9000¥×33人)		297,000	11年11/6の総会費用		
本 部 祝 金		50,000	電 気 ク ラ ブ		275,780
年 会 費 (2000¥×96人)		192,000	写 真 代		3,686
預 金 利 息		366	通 信 代		16,300
			総 会 案 内 製 作 費		70,406
			総 会 案 内 発 送 費		72,127
			会 議 費		64,091
			事 務 用 品 他		7,634
			そ の 他		25,866
収 入 合 計		539,366	支 出 合 計		535,890
前 年 度 繰 越 金		411,393	次 年 繰 越 金		414,869
合 計		950,759	合 計		950,759

以上のとおりご報告致します

会計幹事 山田 晃



以上の報告は適正なものと認めます

会計監査 森瀬和信



11 平成13年度 東山会関西支部役員会報告

第1回 役員会

1. 開催日 平成13年3月17日(土)
2. 場所 松下電器厚生年金基金 松心会館
3. 議事内容 平成12年度総会出欠連絡(返送葉書)内容報告と総会の反省
平成13年度総会開催日決定、講演者決定
平成13年度支部便りの内容検討、執筆者の決定、訪問記事のための訪問先決定。
活動費払込者減少対策検討。

第2回 役員会

1. 開催日 平成13年6月23日
2. 場所 松下電器厚生年金基金 松心会館
3. 議事内容 東山会関西支部支部便りの進行状況
発送先の確認
総会の準備、役割分担

1 2 編集後記

21世紀最初の“東山会関西支部便り”をお届けする運びとなった。関係者のご協力に厚く御礼を申し上げます。早春、支部便りの骨子を決めた時、我が国の経済はゼロ成長で、IT革命と金融改革が一番の問題であった。それが編集後記を書く今、ニューヨーク金融街のツインタワービルの爆破テロという、降って湧いた事件で来年の予想どころか、半年先の予想すら難しい時代になった。

この冬、突然、同期の松毬清文さんから句集“立山”を著者謹呈として、贈って頂いた。日本全国俳人叢書の一つである。現在富山県ホトトギス俳句会長を務められている。戦火のさなか、共に名古屋帝国大学に入学したが、すぐ先生方と疎開、理系の兵役延期で、自炊しながら勉強した仲間である。終戦後すぐ学生として名古屋帝国大学俳句会創設に参加された由。旧制富山高校から俳句を嗜まれていたそうで、早速我が生涯学習に貴重な一文を頂いた。また九州に在って関西支部員でもあるTOTOの江副会長に、短時間であったが、お会いすることができた。共に遠隔ながら東山に思いを馳せ、母校の活躍を祈る同志である。また、第一線で活躍中の若い人や、熟年層の方々にもご寄稿頂いた。厚く謝意を表したい。今や日本全国1時間の移動が可能である。

東山会員の輪が広がる事を期待したい。 (S)

庶務幹事からの御願い

新しい支部便りにしてから、今号で5号になります。今回、新しい方が書いてくださり、会員寄稿は7稿になりました。

ありがとうございます。

これからも会員の方のご協力を頂き、支部便りを充実させていきたいと思っております。

どんなことでも、結構です。投稿、提言をよろしく御願いいたしたいと思っております。